

平成29年度 第5回 日立市立学校適正配置検討委員会 会議録

日 時	平成29年4月28日（金） 午後2時から4時まで
場 所	会瀬青少年の家 体育室
出席人数	(1) 委員 18人（7人欠席） (2) 事務局 教育部長、学務課課長、適正配置推進室職員 計22人
議 事	(1) 協議 (ア) 学校の適正規模について (イ) 配慮事項について
そ の 他	(1) 次回開催予定 平成29年6月下旬
協議内容	<p><b>(委員長)</b>          検討委員会は、本日で5回目となる。          本日は、前回の協議内容を踏まえて、引き続きの協議をお願いしたいと考えている。          資料1に目を通していただいたと思うが、簡単に読み上げます。          (委員長、資料1の「2 主な意見」を読み上げ)          質問、追加のご意見などがあれば出していただきたいと思うが、いかがですか。          (特になし)          このような意見や質問が出されていたということで、前回の協議を確認させていただいた。          子どもたちのより良い環境を考えていくために、(前回までに)それぞれのお立場からご意見をいただいた。さらに議論を深めていきたいと思う。          本日は、資料2の内容について議論を十分に進めてから、資料3に移りたい。ひとつひとつ協議を尽くして、急がずに行きたいと思います。          では、資料2について事務局から説明をお願いします。</p> <p><b>(事務局)</b>          (資料2 説明)</p> <p><b>(委員長)</b>          資料2について、ご質問などがありますか。感想でも結構です。          では、考えていただいている間に、私から少し話をしたい。          補助資料をご覧ください。          2ページは国の手引きからの引用です。今回のアンケート結果と重な</p>

るようなところもあります。いろいろな調査を網羅するような形でまとめられている。

4 ページに特認校制度について書かれているが、前回の会議で委員から「(特認校制度の活用により) 中里小中学校の学区が市内全域だということに驚いた」という意見が出ていたので、資料を作成した。

特認校制度は、学校選択制のバリエーションの一つ。

住んでいる場所によって通う学校が決まる学区の縛りが厳格にされていた時代が長かったが、いじめや不登校など、決められた学区の学校に行けないなどのニーズに対応するために、地方分権や規制緩和の流れもあり、学区を柔軟に考えるようになった。公立学校だけけれども、子どもや保護者のニーズに合わせられるようになってきた。

日本の学校選択制は、品川区で始まったブロック選択制(ブロック内の学校を選択できる)が始まり。特認校制度は、学校を維持したい、その地域にどうしても学校が必要という判断をした場合に導入されているもので、従来の学区を残しつつ、通学範囲を広げる(児童生徒を集める)もの。札幌市で1970年代に始まったのが最初と記憶している。言葉のとおり特別に認めているものなので、大きな市町村であっても1校や2校がほとんどで、日本の学校の多くは、学校選択制はとっていないのが現状である。

5 ページは小中一貫校についての資料です。

茨城県内では、それほど事例はありません。小中一貫といっても、(資料のとおり)設置形態として、小学校と中学校がそれぞれあって「(併設型)一貫」としているものと、小学校と中学校を(9年間の)一つの学校として設置して「義務教育学校」とする選択もある。(平成28年度に制度化)

ただし、設置形態が一体(義務教育学校)といっても、教職員の配置について特別に配慮されるようなことはないので、実際は、一緒になってしまうことで教職員を減らしてしまったりする。

小中の免許が必要とか小中の授業の準備をしなければならないなど、教員の仕事としては、普通の学校とは明らかに異なる面がある。

現在は、多くの学校で小中連携教育に取り組んでいるので、「小中一貫」でなくても心配はない。

**(A 委員)**

中里小学校のコミュニケーション科とは、どのようなものか。

**(B 委員)**

コミュニケーション科は、平成23年度から独立した教科として授業を行っており、評価もする(成績をつける)。

「英語とことば」ということで、小学校では総合的な学習の時間を、

中学校では英語の時間の一部を使っている。

小学校での「ことば」では「落語」に取り組んでいる。

中学校では、英語が通常の学校より多い（週1時間分）。「ことば」では「能」に取り組んでいる。

いずれも、専門家に指導を受けながらカリキュラムに組み込んでいる。

小学校2年生で英検3級の合格者も出ている。

特認校ということで学区は市内全域で、電車を利用して通っているお子さんもいる。現在は、学区内よりも学区外から通学しているお子さんが多く、地元のお子さんと逆転している。

小学校の1年生から入るお子さんは、英語がやりたくて入学してくる。大勢の子どもの中では暮らしにくいということで、転入してくるお子さんもいる。

田植えから稲刈りまでの稲作、リンゴ栽培、鮭を卵から飼育して放流するなど、豊かな自然と、様々な地域の支えによって取り組んでいる。

#### (C委員)

これまでの経験から、大規模でも小規模でも、両方良かった。地域、子どもの良さ、学校と保護者の連携など、どちらも素晴らしかった。

資料（アンケート結果 理由）の感想だが、小中学校のそれぞれの感じ方は、いずれもこのとおりと感じた。

特に、「もっと多い方がよい」の意見の集約は、よく理解できる。

例えば、クラス替えができないと「逃げ場が無い」のはこのように感じているお子さんがいるのも事実、進学時の不安もそのとおり。

「ちょうどよい」では、クラス替えで様々な人間関係ができること。特に子ども同士で学ぶところや、出会いが多いことは、経験上最も良かった点である。

新学習指導要領のキーワードは「主体的、対話的な深い学び」であるが、この学びができる環境を皆さんと共に考えて行きたい。

#### (D委員)

規模については、10人いれば10通りの意見があると思う。距離の問題で、小規模を残すこと、施設の問題で中規模を無くすことも出てくる。

学区外の学校に通学できるという柔軟な制度が有るとのことだが、学校が無くなる際、フォローできるような制度があれば、学校がなくなっても大丈夫ということになる。そのような制度をもっと出し合う工夫が大切。

#### (E委員)

(大小) どちらも良い点はあるというのは同意できる。

しかし、統合される学校の子どもは、通学が遠くなり不利となるばかり

りでなく、個々の性格に合った学校に通わせたいと思っても、共働きの保護者も多いので、実際の生活上は難しい面がある。きめ細かな配慮を行政にお願いしたいところである。

中学校では、やりたい部活が選べないデメリットは私も感じている。合同で部活をできるように臨機応変な方法も考えてはどうか。市内で順位を競ってもあまり意味がないと感じる。学区外の学校を選べるのはいいことだが、通学の問題が気にかかる。

(委員長)

今後、たたき台を出していくことになるので、言い残しがないように、ぜひ発言してほしい。

(F委員)

現在大きい学校も、今後は減ってくる。安易に分けるということはどうかと思う。

不便な面はあるが、今ある環境があたりまえとなっているので不便は感じていないと思う。(子どもたちにとっては)環境に慣れていくことも大事である。

規模の違いがあるので、これから色々な選択肢があっても良いと思う。

(休憩)

(委員長)

それでは再開します。資料3について、事務局から説明してください。

(事務局)

(資料3 説明)

(委員長)

資料3について、ご質問などがありますか。

(G委員)

「役割を分担するのが難しそう」「役割が多く忙しそう」などの意見があるが、実際は(役割分担の難しさは)そうでもない。多忙ではあるが、低学年からの積み重ねがあるので、何とかなっていると思う。

「バス通学は体力が落ちそう」とあるが、休み時間や体育の授業などで補えるので、心配していない。

人数が少ないからといって、それほど心配することもない。

(委員長)

アンケートで挙げられた意見は、「もっと多い方がよい」と考える人の意見である。「このように考える人もいる。」というように捉えてほしい。

**(B委員)**

(適正配置については) 中里小中学校は別にして考えてはどうか。

中里には、この環境を選んで来ている方がほとんどなので、(小規模校としての課題はあるものの) 他校ほど心配はしていない。中里学区から(規模の大きい学校を望んで) 外の学校に通っている人もいる。

中里小中学校は、パイロット的な役割もある。全体的な適正配置とは異質ではないか。

スクールバスを走らせてまで(統廃合することはない) と思うが、日立市全体として学区の区切りを考えれば、学校が少なくなるところもあるだろう。

**(H委員)**

理想は出てきたが、今の日立の現状がどうか分からない。望ましい規模をもって(照らし合わせて)、市内の実態を浮き彫りにしてもらおうと、整理しやすくなるのではないか。

**(委員長)**

いずれはそこを考えていかなければならないが、今は助走の段階だろう。教育はいろいろな関わりがあるので、小さな意見も掬い上げた上で総論としてまとめ、次の段階に進みたい。

**(教育部長)**

(以前の会議で、日立市の現状に関する) 資料は配布している。各論から入ると、議論がまとまりにくくなる。注意深く検討して行きたい。

**(D委員)**

クラス規模については、先生が指導しやすいというところで、30人前後で落ちついているのだろう。

日立としてどういう授業をやりたいのか、どういう人材を育成したいのかということに特色を持ってみてはどうか。

学校の規模に戻るが、特色ある大きな学校、或いは小さな学校を置いても良いという考えもある。そのようなコンセプトも考慮して、適正配置を検討してはどうかと感じた。

**(I委員)**

資料3の2ページ、4ページのアンケート結果を見ると、親側と教職員の結果が視点の違いが明確だ。現場の現状を物語っていると感じた。

適正配置の観点からは、どちらに合わせるべきかなのか。

自分としては、先生が雑務で子どもに向き合う時間が無いということも聞いているので、その辺を考慮して、もう少しクラスの人数を少なくして、先生の負担を減らして、生徒に一人一人に目を向けられる環境を提供することは良いことだと思う。保護者は(現場にいるわけではない

ので) 感覚、教職員はプロの目で見ている。適正配置することで、先生方が指導しやすくなるなら、いいのではないかと思う。

**(委員長)**

私から補足すると、教員の仕事という点では、子どもの人数がちょっと減ったくらいでは影響がない。(校務の中で一人何役もこなさなくてはならず) 小さな学校の先生の方が大変だ。子どもの数(クラス規模)に左右される業務と、先生の数(学校規模)に左右される業務がある。

**(J委員)**

自分の子どもは、一人で長い距離を帰ることを嫌がった。しかし、先生方が丁寧に対応してくれ、(同じ学校に通う) 兄弟を待つ場所を整えてくれたので安心だった。

統合ということになると心配なことはあると思うが、その都度、必要な対応をしてもらえるだろうと思う。

**(委員長)**

子どもの目線での配慮が大切ということですね。

**(副委員長)**

検討委員会の最終イメージ(役割)を考えると、より良い学習環境を整えるという観点から、適正配置の基準を示すことが目的。各委員からたくさんの意見をいただくことかなと考え、今までやってきた。

**(委員長)**

始めから正解を持っている訳ではない。広く意見を吸い上げながら、ひとつひとつ確かめながら取り組む日立市の進め方はよいと感じている。

ひとつひとつ課題をクリアしていくことに協力してほしい。

今後のスケジュールなど具体的な進め方についても、次回以降、明示していく予定である。

**(教育部長)**

国・県の基準のとおりではなく、将来を考えたときに今できることは何かを考えていきたい。

**(委員長)**

それでは、本日の協議は以上といたします。

以 上